

「研究力強化・若手研究者支援 総合パッケージ」(仮称)の検討について

令和元年10月10日

内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付

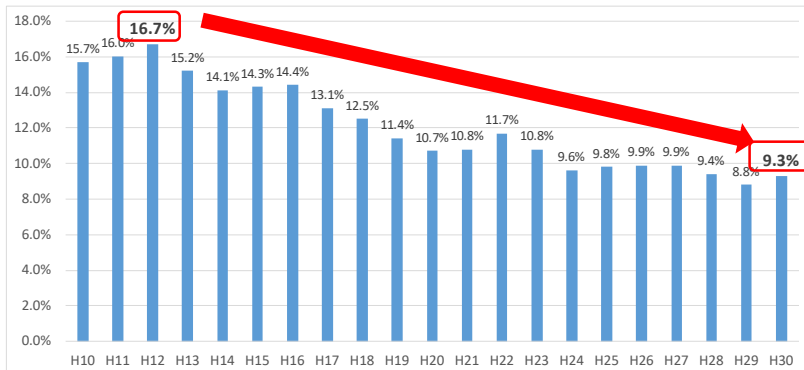


研究力強化の鍵は、競争力ある研究者の活躍 若手をはじめ、研究者を取り巻く状況は厳しく、「研究者」の魅力が低下

修士課程から博士課程への進学率が減少

H12: 16.7% ⇒ H30: 9.3%

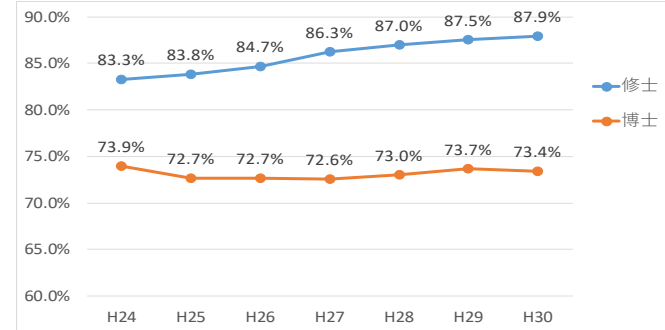
出典: 学校基本統計



博士後期課程修了者の進学・就職率が停滞

H24: 73.9% ⇒ H30: 73.4%

出典: 学校基本統計

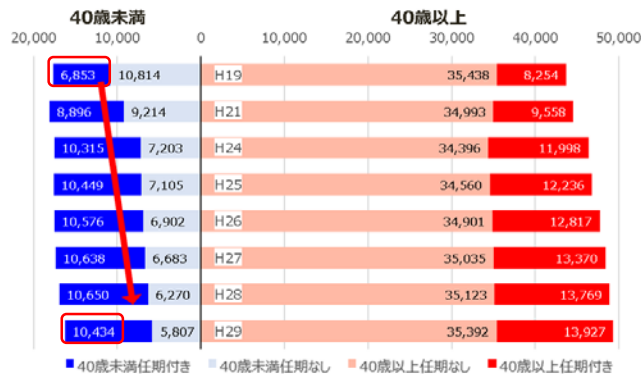


※修士: 修士課程修了者に対する、進学者+就職者+専修学校・外国の学校等入学者の割合
 ※博士: 博士課程修了者(満期退学者を含む)に対する、進学者+就職者+臨床研修医+専修学校・外国の学校等入学者+ポスドク(就職者に計上されている者を除く)の割合

40歳未満国立大学教員のうち「任期付き」割合が増加

H19: 38.8% ⇒ H29: 64.2%

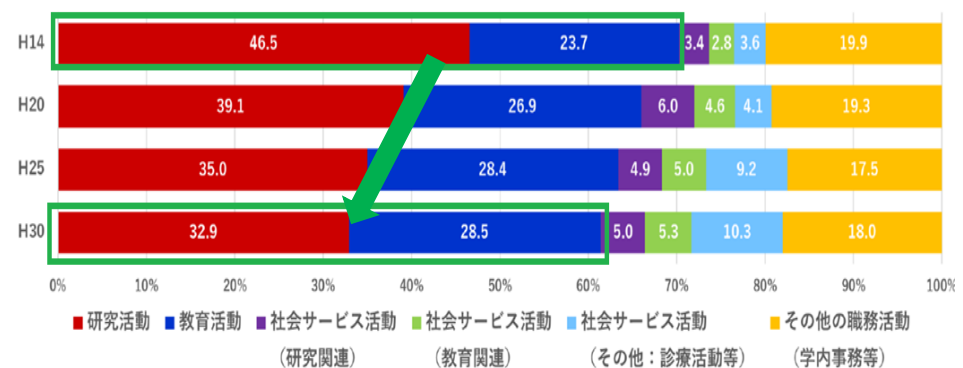
出典: 文部科学省



大学等教員の研究・教育時間の合計割合が低下

H14: 70.2% ⇒ H30: 61.4%

出典: 大学等におけるフルタイム換算データに関する調査



①若手の研究環境の抜本的強化、②研究・教育活動時間の十分な確保、③研究人材の多様なキャリアパスを実現し、④学生にとって魅力ある博士課程を作り上げることで、我が国の知識集約型価値創造システムを牽引し、社会全体から求められる研究者等を生み出す好循環を実現。

多様なキャリアパス・流動性

産業界による理工系博士号取得者数の採用〇倍

研究支援人材(URA、エンジニア等)のキャリアパスの明確化
(URAの認定制度等)

中堅・シニア研究者

若手研究者

博士後期課程

博士前期課程/
修士課程

博士後期課程
への進学率V字
回復へ

修了者の進学・就
職率〇割以上

・40歳未満の本務教
員〇割以上

・35歳以上40歳未満
の任期無しの研究者
〇割

大学等教員の研
究・教育活動の合
計時間〇割以上

「魅力ある研究環境の実現」

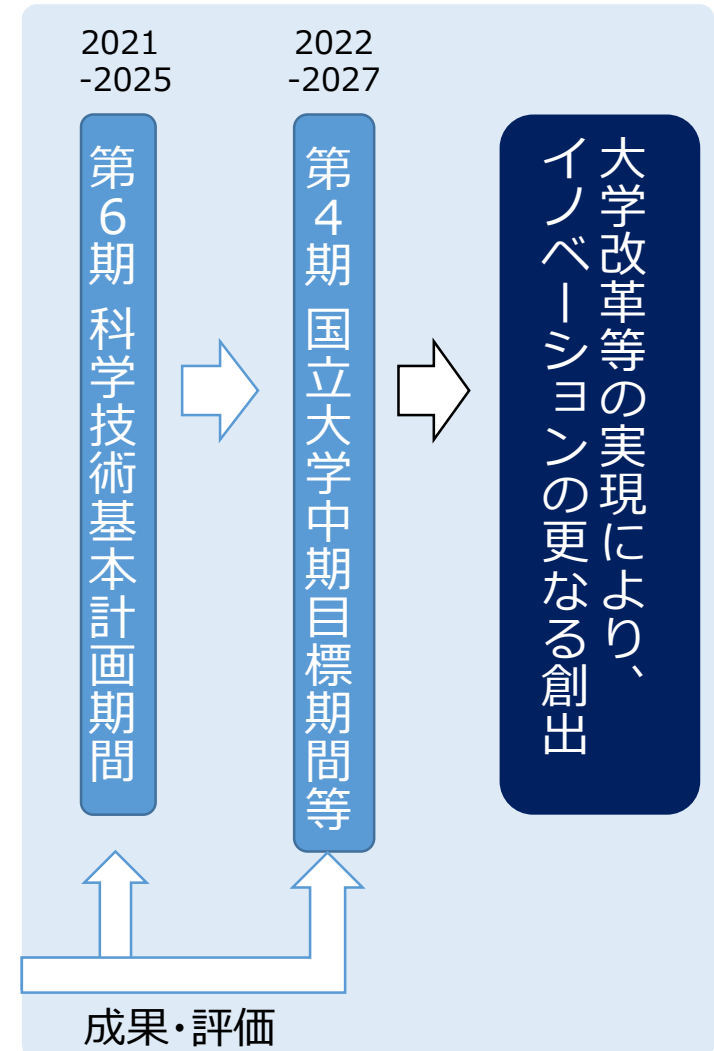
「人材」、「資金」、「環境」の三位一体改革を進め、さらに次期科学技術基本計画等に基づき、大学改革等を実現し、イノベーション創出を加速。（現段階では、「人材」を中心に大枠を検討中）

【施策の方向性】

- 優秀な若手研究者のポストの確保
- 博士人材のキャリアパス(教員、研究支援人材、産業界等)の拡大(有給インターンの拡充等)
- 研究成果の切れ目ない創出に向け、研究者の多様かつ継続的な挑戦を支援する「競争的研究費の一体的見直し」
- 若手研究者の自由な発想による、挑戦的研究を支援する仕組みの創設
- 新たな仕組みの創設(外部化)によるオープンイノベーションの活性化
- 研究支援人材(URA、エンジニア等)のキャリアパスの確立(URAの認定制度等)
- 研究機器・設備の整備・共用化促進(コアファシリティ化)、スマートラボラトリー化の推進等

人材

【主なスケジュール】



課題

様々な競争的研究費の創設による複雑化、任期付き研究者の増加



改革案

- 競争的研究費の「全体最適」の実現＝“各FAのミッションに応じた最適なファンディング”
 - ➡競争力ある若手から中堅・シニア、基礎から応用・実用化までの切れ目ない支援
 - ➡若手研究者への重点支援、新興・融合領域の開拓に資する挑戦的な研究の強化、国際共同研究の拡大
 - ➡FA間の連携による申請手続き・評価の簡素化
- 優秀な若手や研究支援人材の「安定」と「自立」の確保
 - ➡機関裁量経費の活用及び大学経営改革などによるポストの確保
 - ➡プロジェクト雇用における若手研究者の専従義務緩和による研究機会の拡大
 - ➡バイアウト制の導入により研究時間の確保